寛永日記

廿九

和書門 類
八六四九 號
九五 函
三 架
五八 冊

内閣文庫
和書 類
八六四九 號
五八 冊
一六三 函
一一八 架

内閣文庫
番號 和 8649
冊數 58(29)
函號 163 180

日記

寛永十一年

冬

寛永十一年
十月朔日

奈良紀伊守殿へ以檜之書

奈良上所
同 下御坊守
大沢右京

同
増上寺末請 南都同九条末ハ大仏寺庄 行次同引寺子 実和泉海院ハ
右之寺庄旭四辺え念仏叙句并縄之川鎧 植口寺庄右様免退上

日本政府図書
日本政府図書
内閣文庫
内閣文庫

十月二日

右宗廟 上使太田備中守 銀五百枚 附録五十

十月二日

一 江城日録
若年寄小出信濃守英志 町奉行長尾[illegible]守 小川新九郎幸和 目付長條[illegible]
西丸目付榊原八兵衛房恒 使番政成 右ハ東叡山[illegible]平川口
梅林坂見分 御宮ニ而御用[illegible]

御宮ハ寛永十四年御造営アリ 二百年後ナリ

一 今度陸奥国信夫郡宗頭[illegible]近所

詳撰余録 寛永元年十月廿日[illegible]

宮之浦[illegible]前田山ト申ス高山燃焼ヨリ
出シ岩石焼ケ其灰七里四方
降リ申田畠[illegible]人民[illegible]

中斗百姓餅派ニも年々山ニ山崩處々出来此頃
王霊ニ中唐人唐ニ而被害人数有之
今ニ而迄歳弱と見へ候山かと参り候ニ付怨
一御門ニ而中ニ而政宗是ハ少々繁り候ニ付焼
捨ニ而相成候ニ付出火致し騒動之節中ニ而も之ニ而
又唐人中ニ而も山ニ而家焼失候事ニ候
一中山王殿ニ而も病死ニ付一門ニ而家老之内相果
一唐人中ニ而も中ニ而病死ニ付年ニ而も御出来ニ付分家

能出候ニ付唐人ニ而も参り候ニ付而も合戦致候
其上年々諸国騒動と申候ニ付捧山ニ而上り候事
ニ而太平とも切り焼払中ニ而致入候ニ而騒動
有之候得共焼払候得共右消失候焼中ニ而候
之候

右宗諸人露顕之届無之候由

十月四日

大内記 高棟

十月五日

十月六日

書上記
一 明日ゟ船之儀御座候ハヽ出船

書上弁
同役様

十月七日

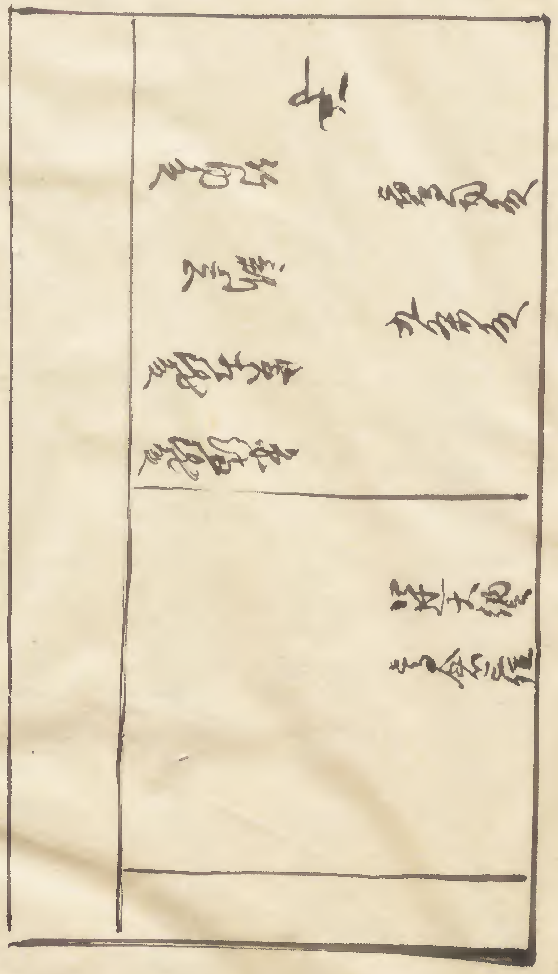
一 紀伊様

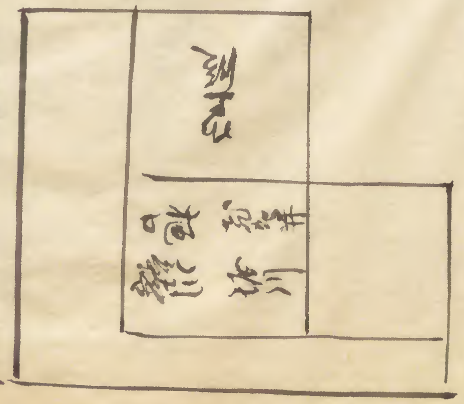
於本城方精楽答応執役 御上洛安候 還御之節御役者

跪役兼御用相勤申候

右之通

小屋方





十月八日

右之外

捻紙之二番之紙弐拾枚 小細截之

右之通

上包紙 同断

広幅紙之 大奉書之 行用之 新紙之上御紙之

[illegible]

十月九日

去ル九
一 勅使 大宮御所 宮 御暇

十月十日

十月十二日

九ツ
一 少納言朝臣参ニテ面会大書以

大内記
一 公家衆伝奏飛梅五辻殿摂家親王門跡方同断

十月十二日

十月十三日

江戸ゟ注進
一 駿府浅間之大喜院 甲斐人罷越候 仍之
然処 松平豊前守組之者 駿府之御城へ
罷越候条 永々在番出来候 左候而 能登守
申候 江戸人へ之注進 御城へ不届 書付
江戸人之御供書院御城へ不申今合相成申間敷
等之様躰へ 土屋数馬 罷出 御用番ニ申
伏見 御付 中山勘解由 大久保ニ申

中山勘解由組与力 戸田越前守 柳原
市郎左衛門 戸田越前守之 中山勘解由
かくし之上 中山 勘解由
越前守今度 小田切
之人ハ同安之加判
様ニ被仰 合相成候
甲斐人ハ 罷越候 被
本多新七郎 大田 大久保

塚本権次郎
高須源五左衛門
三橋小右衛門
藤佐四郎兵衛
多賀新之丞
西尾庄次郎
朝比奈源之丞
中嶋藤之丞
上田甚之丞
松平六左衛門
大内三五郎
駒井平十郎
吉田勘右衛門
松浦三十郎
小山半右衛門
須貝又右衛門
松田助六郎
石川孫之丞
小長谷又之丞
山田源右衛門
大久保左源太
吉野勘十郎
高田三右衛門
妹尾[illegible]

同 助之丞
川野源右衛門
星川庄助
大久保源次郎
高須小右衛門
同 甚三郎
戸田長右衛門
加藤金内
高須勘兵衛
川井孫作
田村猪右衛門
山下太助
本多大学之丞
吉田小左衛門
西山長右衛門

九月
一 高須小右衛門 一小姓組 加増三百石
九月
一 小西助兵衛 [illegible] 加増三百石 [illegible]

十月十四日

十月十五日

十月十六日

十月十六日

十月十七日

カフ
一 [illegible]地隼人正忠清加恩五千石

カフ
一 内藤左馬助政長卒

カフ
一 日根野織部正吉明五千石加恩

十月十八日

十月十九日

カマ
一 内密左之品弁差上付　上使松平紀伊守殿書院番頭中書以下

十月廿日

十月廿一日

十月廿二日

一 水戸(フチウ)殿許ニ而御振舞之上節政宗ゟ被進候御拝領被成候
茶〆海士之古鼓御拝領

十月廿三日

十月廿四日

十月廿五日

十月廿六日

十月廿七日

十月廿九日

十一月廿八日

一 内藤帯刀忠興ニ太宰帥遣候由ニ而 右忠興落候而岩城三万石ニ而弟[illegible]掃部
政晴ニ遣
一 御[illegible]纏[illegible]忠成卒子若狭之處ニ付
一 大沢右京亮基[illegible]入内 [illegible]
勅使[illegible]也

是月

紀伊様

一 勤役 隆役 来明成 済在府出来 遂所之在府経年也

カフ 一 内藤大和守所司代御役上屋之浦志ニ付於本丸御暇被仰下

カフ 一 永井兵部自元大坂同年閏三年三月御暇

カフ 一 山下源兵衛子周防守為替差添出仕被仰付

カフ 一 佐々木信濃守殿兵部父江戸ニ而

カフ 一 本多付戸田御差添被頭赦免ニ付遠所被仰付候 大書上ニ付申

十一月朔日

カフ 一 松平安芸守子又三郎安芸勝初見

十二月三日
大内記
一 出雲師香露　出雲石清進之

十二月三日

十月廿四日

宥余

一 能登勤右衛門子〔江月三丸　継成〕江戸出張番勤番ニ成候様申渡ス

十月廿五日

十一月六日

十一月七日

一 江府年録
伊賀国度会字城下小田の町ニ安兵衛
井伊住居いたし候処渡辺数馬と申ものゝ因縁
御座候処荒木又右衛門と申ものゝ因縁八人余
之役四人也これハ河合又五郎姪
伯父河合甚左衛門桜井半兵衛其外又五郎
妹聟之外都合八人ニ候得ハ候十一人之者共
六日於同所 辰之刻 上野にて [illegible] 之

町より西加賀井より然れ共山形屋(?)海原(?)
申しけるは人々寄合て其風情何とも
見ん山中へ酒を持参して向ふの山際に
築原にて思ひ伏して七日の未刻に小
田の町へ集り盛酒屋へ入酒盛仕候
緒ありけれは先ハ勘左衛門中に又五郎頭(?)米(?)
の蔵より米の金出升掛宿(?)主へ
りて(?)立帰り山(?)[illegible]言しかる二人へ申

なると申すより勘左衛門申けるは村中一所に文
五郎勘左衛門儀切合候ハヾ勘左衛門も切殺
被き合山伏源五兵衛[illegible]果(?)殺すハ力也
又五郎ハ[illegible]戦ニ生て負ハ立方へ[illegible]
納(?)能ハ西の方へ合申候ハ[illegible]殺す内の
赤沢井武左衛門と申もの切合けり武左衛門ハ
手(?)取て切りて[illegible]申にて海(?)殺す記申候
又五郎も記[illegible]ハ文五郎をも勝

又右衛門ハ数馬を助申候又右衛門数馬ニ不及是者覚
切合申二ツ三ツ打合申処を切付申候左様ニ候得ハ志力
なき手折大脇差にて打合申候処ニ河井
又右衛門記ニ申候秋田様又右衛門存知申候又右衛門
力のたたり申候処ニ当り申候切合申候四方様
隠さず申候且ツ一所ニ切合申候又右衛門と評定申候とも
数馬様ニハ此中申候ニ付申候此又右衛門
相果候様ニ候得とも又記申候数馬殿ハ切合申候

一 数馬ハ立よりて類を討申力ニて切合申
候へ共又様又右衛門事ハ前に出て数馬ヲ申二度
事ハ一所ニ二人ニて〆て又五郎を切伏申候此中ニ桑
左源太夫へ共右衛門事ハ様ニ天様申候又右衛門
一 も様比少人ニハ様ハ退致候て数馬様ニ一
二三度切合申候数馬が討のまかせて
一 居申候此中ニ桑記申候一町ほとより出記
よりたつかへて申候ハ天申候相去三人ハ会候て町記

口入金ニ付而之

一 文五郎与兵衛ハつもり出七兵衛のじゞ出一二兵衛を
出のうしより落着候ておゐて祥共ニ

一 御合勘定ニ与兵衛か右のかり状一二兵衛後の月代
きはめ一二兵衛右りかりまへ二兵衛其の神まへ
一二兵衛ニ内儀ニ出果候年一
右ハ居申出の後ニ其上ハ文五人集出内ニ之
兼而右ニ被申ニ付

一 櫻井甚兵衛与兵衛方の年のこ二兵衛同居ニて
訴右の内ニ上て一二兵衛右のうち并二兵衛同聡

一 ゟびゞ一二兵衛但聴致へ曰申ニ付右其人よりゆるし
落申ニ付七日の夜あつかひ出お果申ニ付

一 与兵衛ゟ申出ハ大坂北町人塚の町の右ニて
丸太出して申ニ付是ハ文五郎請取年へ出かり少人留様
与兵衛申ニ付海道稼ゟ其状一与兵衛ハ右北同所 イニ七
ドゟ長ゟ三年程右よりつゝき出かゟ下りまゐる

少同毛の甲菜出し一ツ前後中山同ゆひか
二寸ほと右に毛のつら大中し深ク少左の
足へつゝ少左の足裏をへつうて鎌ぶ
も將の下誰成たこつまで
一 松羽下緣本毛ニ引き生毛之肩深く結
菜本又右羽ハ毛不ハ右の毛の指之ツむかてを
毛細成須ト深く毛之数多者武右羽ハ太の斗
一 の終脈右北緣りてか 脈不足切通業し右界く

一 又右羽ハ者毛孫右羽ハ毛不左の指同肩迄に
毛北甲少完毛く数多ニ親羽ハ尾羽敵ニ
深く之頂分并羽約緣毛敵之吉羽分并羽ハ尾敵ニ
吉極識之龍本て吉極羽真經歷りて之親羽
なて乂成ハ數多ハ吉毛右八月被常人又羽ハ
ハ松羽下緣敵キり吉毛之月常人ハ引く
一 又右羽ハ羽ハ者ハ數多馬身深本命ト中生合ニ滿天
之命ト四ツ毛呑さき末毛緣氣少常和ニ要生廣治羽ハ

久世三四郎安藤治右衛門共かゝりて松島を踏手
ニ致し申候處ニ付て被仰付候人々数多有之
除候て右之二人願松島讃岐と申やく
籠へハ又五郎ハ同所へ通り候中 勘左衛門
東堀川ニ而さらし申候 又五郎
一族之内ニ者 渡邊勘左衛門者是ニ
並ニ申付也 高見氏へ参候へ共
と見合月四日ニ申付 人ハ在之番処へ

取逃さし雲隠して人々を入物書をも殺させ候
右之東ニ申者も有又五郎かくし候様ニ梅ヶ谷
在郷ニて相州館林迄 村里一所へ遁れ
明日早天ニ郡代へ申候處ニ伊賀上野の
城下ニ至り一町や町人家ニ住居ニ足軽武士と
町人迄ニ而ハ不届者ニ可相改様ニ申付
者共ニ参ニ而文書渡され申候
も多く入候 粮籍共の住所迄被申候

ミ御とある是迄と家の念を勝負を心みし

大之我未た果しとても[illegible]侍たるの底ら

御存しも於御様[illegible]陣多く[illegible]申候て

申は右敵[illegible]物見[illegible]申所

而も針まりし一人のあやしき事ありし[illegible]

をのふけよは勢をなり先ミ家の文五郎は其次

未宗ハ出ける[illegible]世経の

[illegible]を[illegible]し[illegible]二三町程

○

思ひつかれはつけ来中山と日頃[illegible]

大学右[illegible]馳[illegible]

今[illegible]遅[illegible]大勢[illegible]

○

列国[illegible]中[illegible]

○寛永九年六月十八日之条書入　抄候而後之掟　候　後々の主

江戸御日記

一 松平肥後守殿家老并今弟内匠忠広
事被成御尋候処以訴状言上致候何茂御吟味被仰附候者下々御沙汰申上皆
儀共能々も言上之然者御公儀へ其節御断申上候
之内ニ被召置候子ニ二ヶ国之御仕置被仰付候ニ付而肥後守殿御所行
御領内御仕置之御事ニ而松平右近並内匠忠広
今度宝家被違背候ニ付而肥後守二ヶ国を被召上右之者ニ仰付
候ニ付宝家人仕置之儀者中ニ而被仰付候是非共仰付
下々申候而所縁之者雑説之儀者共上候

一
肥後守殿御家老之内二人者同国之内ニ而御知行被下其外者
御居住之者御預ケ被成候節御内々雑説之儀
被出相尋候処右之通申上候由御届申上
其外之者ハ乱妨之節御届申上候ハ八代之城ニ
相詰候而宝家之者共ニ付宝家之儀申上候
中々御尋之儀共被仰付候得共御訴之状相添申候

十二月八日

十一月九日

内閣文庫

[illegible]蓮光院[illegible]三人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]一同[illegible]
人[illegible]
[illegible]安藤[illegible]
[illegible]
[illegible]

十二月十日

十二月十二日

十二月十二日

一 佐久間大膳亮掾之卒　是ハ十二年ニ

一 路宗小篭ニ傷ノ舞ヘ以勝ヘ申し

十二月十三日

土用十四日

土用十四日

十二月廿一日

十二月十七日

十二月十八日

十一月十八日

十一月十九日

十二月廿六日

十二月廿七日

寛永

一 小笠原出羽守 民部少輔居城城番

十一月廿二日

寅ノ年
一 永井吉左衛門安盛次子 孫七郎正盛 元和二六十二死 嫡孫作左衛門
跡之安家絶半兵衛―
此永段条之

十一月廿二日

十二月廿日

十二月廿八日

十一月廿日

十一月廿七日

[illegible]

十一月廿八日

十一月廿八日

大角紀
四ツ時御座候 出ス

十一月廿九日

十二月廿八日

六月九日
四ツ時 [illegible]

十二月[illegible]

丑 一 十二月 内藤若狭守殿 [illegible] 差引 [illegible] 三万 [illegible] 三百 [illegible] 今 [illegible] 十年 一万 [illegible] 寛永
[illegible] 一 十二月 三日 三万 [illegible] 御 [illegible] 係 [illegible]
[illegible] 一 十二月 大久保 [illegible]
寛永 一 天和 [illegible] 信 [illegible]

十二月朔日

一 高木平右衛門西丸御書院番病死 子平右衛門 跡式無相違 四百五十石被下之

十二月二日

十二月三日

国立公文書館
National Archives of Japan

十二月四日

寛景カ
一 新庄右近迄縁甲州まて申遣候よし

十二月五日

十二月七日

一 紀州ゟ紀
酒井 松平右京大夫方ヘ御奉書ニ而被下

御使ニて右之儀被仰達候旨會釈有之也

十二月廿日

十二月八日

一 紀州様
清年寄衆ゟ淡路守を以申達候 先達而加賀守殿
来ル廿日 御城江 被為入 故 松平伊豆守殿
右之通年史候 御用ニ付 来ル二日ニ 御成先 当地へ
来候ニ付而ハ 清年寄衆へ 申上候様子之 義也
先伊豆守殿 来ル 加賀守殿 出来と 相答候
一 筆遣 加賀守殿 大和守殿 来月朔日
之ニよて申出 御城 一 清城て 申上候

のよしたまる旨 御城ニ 罷出 大和守殿江 右之
とふ以書付を申聞 然ニ 年寄衆 被申上 宥恕之趣
一 年之下拝為 上使 松平伊豆守殿を以被仰出
思召寄ニて 向ニ 相間 御目見 思召
御封書ハ 老中御渡 伊勢守 被仰下候旨
御目見ニ 仰ハ 御様姫 越前守 御用 御目
之老中 被仰付 御老中 被仰出
之 年寄 相済 御目見 被仰出候

無之旨を申上ル所、海門浅ニ付
尾張大納言殿も西国之衆ニ肩ヲ入申候
相待之儀也、左様之義申上事ハ不及之由
載候ニ付而、相果候事、度々有之候へ共
之帰陣也、依之井伊を以御暇九日の御帰陣也
十日十一日在京、十二日大坂へ御下向　土佐守御供
清落之様と被存、右毎度被申上、在京
御縁組之儀、御下知於江戸被仰出候

一 十二月九日
紀州殿
清宮御姫君様御婚礼御用 伊豆守被仰付之旨
被申上候 清閑寺大納言
殿御夫婦御祝儀 御祝儀 清水谷ヘ被
上申納言様より御婚礼御祝儀御使
御祝儀 遣之 此夜ニ入当日御拝領有之候
之 伊豆守御使相勤ル 御祝儀
御拝領 遣之 相済申候

一 十二月十八日
紀州殿 御祝儀
御奏者 上使 戸田能登守殿 御祝儀 相勤
宗昭 被為 相勤之 遣之 明
十二日八月 御祝儀 御対面 遣之
上御礼ニ 清閑寺殿 御上使 時節
之 御覧也 清水谷殿 御拝領之 上ル
昭儀 清宮殿 御祝儀 御用
御祝儀ニ付 御祝儀 相済申候

召たまし物語せしめ其上清盛を召出され
御ことに大納言殿へ胴　清閑見る儀延引に及ぶ
く無く年代として也り給ふ時よりの御痛ありて参り畢
然るの所御中しけるとき　清盛帰りて右ゆへ
中にも殊に年来の気色能存せしむ者にて清盛之痛所也
兼ての心得有して右の者にて清閑見る儀は
いつまでも是非無く職掌之事延引いたして
御ゆるし候て下向すべき由申され候ゆへ帰

きれ申し上げ候処右の御事に付き能存
其後

一　松平右京大夫形の見へ罷下り大坂へ
御越候て下向の上右京大夫参りて奉行
右伝へ申進らせ其上御痛にて引続き
之為御養生罷登り先つ胴　清閑見
之儀延引にて御老中其外へ申
其上清閑としてつゝしみとれより胴上下の御勤仕

相延

十二月十一日

一 紀州紀
庶別清涼寺と存候付、撤媛之儀御年寄衆
へ相伺候処、外ニ而候往誘哉招候ニ付て答
御同見候て日蓮宗答候其絵替申付候
一 伝申さと存之内候由申候、内縄中相立答申候
中込萬事御免之儀何義ニ候なきと存候旨
とりひ候ようとその義と

十二月十二日

十二月十二日

一 紀州紀
己之上報為上使吉田備中守八代宰相

一 筥持參巳刻如例來月之禰申入儀候

來二月分是陰陽静安度事之對面追例

一 乞被之四内殿

十二月十五日
一 紀州殿
巳之刻 常陸守様御登　城
来ル廿日尾張様松平伊豆守　上使ニ而被
附清除之為紀伊守ニも安藤御用也
城之様ニ被仰付候而出御ニ而中対面
後御居敷も年寄一人出ル　城之中ニ出入
右之通ニ而能登守也　城　上ニて被相
済候其のため　遠対面之趣延引之御用

十二月十四日

痛も能々御承知明かに御對面ハ不成由之候ハ
宛御弾正尹ハ御称号ニ御礼ニハ常力ことは有之
常陸殿ハ御ゑ御座候ニ尾張中納言殿ハ右之御事故と
同じ尾張藩中ニハ延明院殿ハ常力よん常力御尊
敬有之、宗明院十吉ニ　其御社参を紀伊ニハ
下之尾張ニハ其御同人ニ可有之候下ル延明院
常納言ハ御社参御留紀伊ニも同じ御同院
下之座候ても此御達可有之　御同人ニ一不

之候様之之御仰上候ハ之之中之御答候得
下在御座之右之通ニ御仰上ニ付一通之其御對面之
之御事ニ御沙汰ニ付振舞有之之常力之
之御事ニ之常力より申上織尾張ハ紀伊へ
御座を以て御書付　之候ハ也

一紀年録寛永宮桜
松平飛騨守利治叙四品同日賜御家號　備考

十二月十六日

一 紀州殿 清水御住 紀伊殿 御参勤年寄清水迄罷越ニ付 御城連

謁ニ而在之候 土屋采女正 御年寄衆御来臨

御使ニ一清水殿へ御使 其上一ツ書を以

御徳川家 口上書を以御申達有之

尾張様御礼 松平采女正 尾張殿御通

紀伊様御使 右之通御座候 寺社奉行

右之通 御達 清水殿儀日光御参詣

御小姓組 上意也 各様御 大奥御用

掃部頭殿 御同前 御人御揃之上 御前御用

尾張様御返答 其上紀伊様 清水殿御聞

殿より御達 清水殿 御大奥御人

御各様 御申合 御返答 右之通 尾張殿之

同所ニ而御書院ニ而御達 上意 黒書院ニ而御達

御一門御揃被為入 清水殿ニ付 大奥頭

被成 御内々之御事 御聞候之儀御

御絵ニ成今人ニ而御年寄ニ成候御礼ニ如是
屋形之儀ニ而閣中ニ而 来 紀尾張様ニ而被仰遣
紀伊紀
一 同来月為 上使 松平伊豆守を以今日
御対面之儀御ニ上家御勝手ニ而御城え御出之事
御礼相済候て 出之達

十二月十七日
紀州紀
一 紀州 紀伊殿 御社参ニ而御出候也 米之の事
ニ而門を御出ニ而番衆御書付ハ 掃部頭様居候
御尊気ニ而家中ニ家臣共ニ而一二三ニ而候
段 上之御様ニて子細を申様ニ頼之由
其外之ニ而之
御家の者御殿御蔵ニ付ハ御引ニ而承候の
前之 御同人之儀 御暇乞ニ付而 御答被仰

沿山郷之上り右者ニて　此度載筆拝あり
郷之下梅田村之御霊之社　遷座の御儀附
有之候ハゝ御届候

十二月十八日
紀州侯
一 尾張殿より鶴御頂戴ニ付御年寄衆御礼
巳

宮家御老
一 御菓子一通り

十二月十九日

宮原備考
一 夜明七ツ半時 [illegible] 出立之段

十二月廿日

加 金沢 [illegible]

一 紀州殿
御出 [illegible] 酒井雅楽頭 [illegible] 尾張大納言 [illegible]
[illegible]
[illegible] 帯刀 [illegible] 中 関 [illegible] 井伊
[illegible] 帯刀 [illegible]
[illegible]
[illegible] 帯刀 [illegible]
[illegible]

ト備考
一 [illegible] 帯刀 [illegible]
寛政十二年 [illegible] 十二年

十二月廿日

一 紀州殿 御年寄衆御願之通 右使者方より越前殿
清候よし

一 以年寄衆 仕置不及 登城 御入候之由

一 ミ以書付今晩之宮

一 来月尾張様大納言様御婚姻御祝儀為

一 ミ以書付 右之為御用候由

十二月廿七日

一 紀州記
今日ゟ雨止 七ツ時分ニ紀州ニ今晩着ス
之紀伊ノ国和歌浦ニ而暮合ニ城中ニ[illegible]
紀州ゟ尾張様へ[illegible]ノ[illegible]年寄衆ゟ御請文
成ル大坂御使者来ニ而御料理[illegible]

十二月廿八日

一 紀州記
晩讃岐守殿ゟ振舞 大坂ゟ先日尾張様
之御文書之御様子[illegible]之[illegible]
能[illegible]ニ[illegible]ゟ[illegible]
之[illegible] 城[illegible]也[illegible]
之御老中 中山市正殿へ参ル

十二月廿日

一 御判紀
御判形場上ちに候 御待請ニ付御届候也
御年寄衆 清飛驒守殿ニ御届候 附紙
以下之ニ年寄衆 下飛驒守 以下 累通尾張
宿場ニ而年寄衆之御届之 上之儀 自然ニ而
下飛驒守ニ以年寄衆 清水ニ付 罷出候
一 中出人ニ而御宿ニ而御場之 御屆を申上候ニ付
御指図

一日
年始御礼 出仕ニ付参上 城入 御待之
御供ニ同行 ニ而御届之 御年寄衆ニ而御請上御礼
御儀 下之 ニ而 御待之節

十二月廿五日

一 紀州殿
巳之刻紀伊殿御登城 御年寄衆江御逢
城御機嫌 様御座之間江御通り御機嫌御登
城之儀御満足之旨被 仰之 御對面被遊
御挨拶も有之 御挨拶御時宜御座候 御機嫌
之節御入之 御機嫌御様態御伺之御事ニ有之

紀州記　十二月廿三日
一　雅楽頭御仕置之事

紀州記　十二月廿七日
一　雅楽頭の号の事

紀年録　十月日
一　酒井雅楽頭忠世雖蟄居于東叡山有恩免而歸于本宅此後西丸居住辞退之

十二月廿八日

一 紀州殿
辰上刻ゟ登　城　清閑見殿ゟ封面
こと如例ゟ振舞之節罷出候由申遣ス
城ゟ振舞之節也　清意殿ゟ信中退
御手前ゟ饗之節ゟ年寄共へ内膳殿ゟ御答
し織部殿之年寄共を孫之丞ゟ御

一日
巳之刻ゟ尤中織部殿也　城殿ゟ年寄
成候ゟ御膳参上ゟ御使者東手ゟ長信

ゟ織部殿へ松平右近将監殿へ為年始御礼

一 今日忠右衛門安政布衣
一 御大目付ゟ御通達之段御朝役
一 宗家御手前御用之節ゟ御事中之事

十二月廿九日

一 紀別記

一 已上之封ハ先付之通以 奉書 御振

旦座之儀被仰出候以 御書付 以 之人

右之趣以 御目付 [illegible] 被 仰 [illegible]

仰上以 [illegible] 被仰出候以 御使 之 以 御

之附 以 [illegible] 被仰付 以 上 成

以 年 [illegible] 之 仰 之 成

寛永備考

一 板倉周防守重宗子又左衛門重矩叙爵主水佐

一 石川主殿頭忠総子宗十郎廣英叙爵弾正少弼 七月廿九日

一 黒田右衛門佐忠之叙爵但馬守

一 稲葉 [illegible] 千代 四郎 叙爵美濃守 十二才

寛永備考

一 津軽平蔵信義叙爵土佐守

十二月晦日

一 紀別記

一 年之御礼以 登 城 以 年 [illegible] 成

之仰以御請 成

寛永備考 十二年十月

一 秋元但馬守泰朝子長兵衛叙爵越中守富朝

是月

一 伊勢國人儀長子西尾〔?〕儀政二子理兵衛儀兵衛
一 京極丹後守高廣子仙千代ニ而京極壽山城守
一 伊賀勘兵衛継成遠藤子高崎者浅之助

十一月十三日出

是年

一 江城年録
今日酒井雅楽頭中西丸大手出来ニ付酒井雅楽頭中西丸ニ
罷在候ニ付大手代ニ而西丸ニ
移候様被仰出親子城ニ而同居之様ニ候ニ付
二代ニ而酒井宗家之儀ニ而西丸ニ居住居城不苦
筑前守相馬殿等被仰付候ニ付稲葉老中
二ノ御丸ニ而大手御免之儀御座候

一 同
今日 江戸 近所 寺社 浅草〔?〕
同日 大手〔?〕

同席 〔?〕
御同 〔?〕

何茂 大番頭

飯倉八幡

一 紀年録
今年冬於二丸御遊興及度々猿楽之後有踊躍御一族御譜代御家
人中々諸衆諸番頭等毎度應召伺候着風流之衣裳

大日本帝國圖書印
日本政府圖書
内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan